JMS NOTES

第58期
事業のご報告
2022年4月1日〜2023年3月31日

(証券コード 7702)

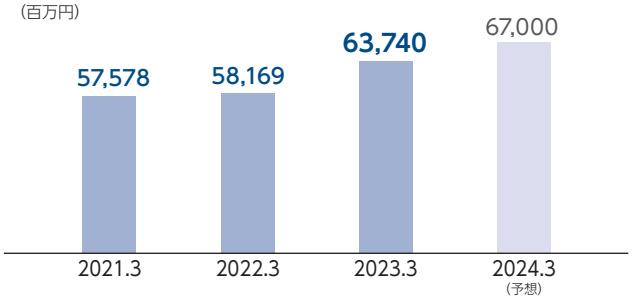
目次

01 連結財務ハイライト
02 ごあいさつ
03 トピックス
05 JMS PREMIUM REPORT
摂食嚥下事業の取り組み
09 【特集】
サステナビリティ準備委員会の活動
11 セグメント情報
12 システム別売上高
13 財務諸表
14 会社情報

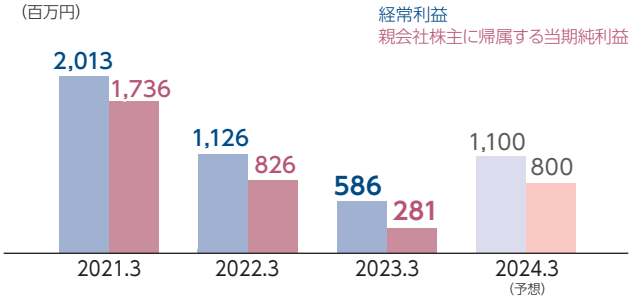
JMS
人と医療のあいだに…

連結財務ハイライト

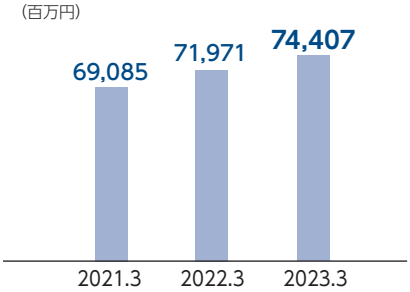
売上高 637億40百万円



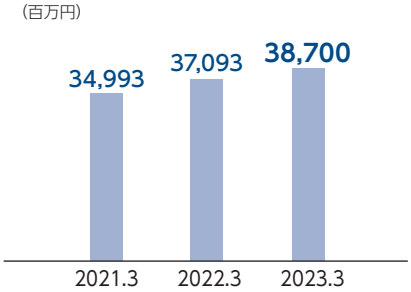
経常利益 5億86百万円
親会社株主に帰属する当期純利益 2億81百万円



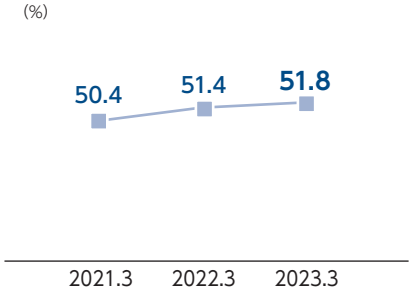
総資産 744億7百万円



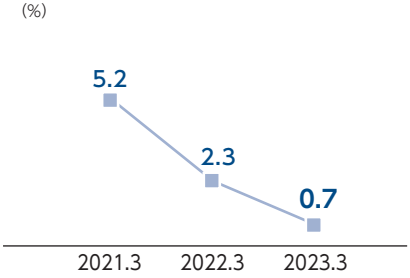
純資産 387億円



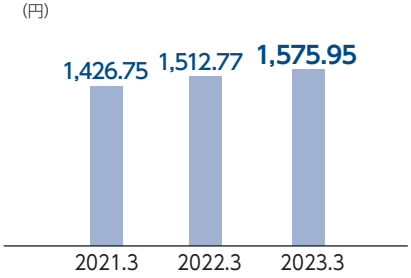
自己資本比率 51.8%



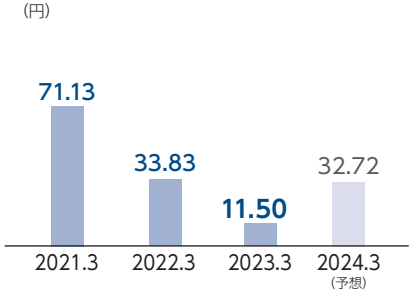
自己資本当期純利益率〈ROE〉 0.7%



1株当たり純資産 1,575円95銭



1株当たり当期純利益 11円50銭



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第58期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、国内では、急性血液浄化事業に係る販売が増加したほか、薬剤調製・投与クローズドシステムや血液透析装置、人工心肺用回路などの販売が堅調に推移しました。海外においては、国・地域ごとに状況は異なるものの、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復が見られ、ＡＶＦ針（血液透析用針）や成分献血用回路の販売が増加したほか、血液バッグの販売も好調に推移しました。

この結果、売上高は、円安による円貨換算額の増加も加わり、前連結会計年度に比べ55億71百万円増加の637億40百万円（前連結会計年度比9.6％増）となりました。

利益につきましては、増収効果はあるものの、原材料費や電力費に加え、需要回復に備えた労務費の増加や、販売活動の再開等による販売費の増加により、営業利益は7億24百万円（前連結会計年度比26.1％減）となりました。また、補助金収入の減少や、持分法による投資損失の計上などにより、経常利益は5億86百万円（前連結会計年度比47.9％減）となりました。これに投資有価証券売却損や法人税等を加減した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は2億81百万円（前連結会計年度比66.0％減）となりました。

期末配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、1株につき8.5円とさせていただきます。これにより年間配当金は中間配当金（１株につき8.5円）と合わせまして1株につき17円となります。

株主の皆様には、改めまして、これまでのご支援に深く感謝申し上げます。新しい体制の下、役員と従業員が一丸となり、世界中の患者さんのＱＯＬ（クオリティ・オブ・ライフ）向上と医療従事者の方々にさらなる安心安全で信頼される製品・サービスをお届けできるよう尽力してまいります。

今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2023年6月

略歴

1988年4月　当社入社
2007年7月　当社財務部長
2010年7月　当社経営企画部長
2011年7月　当社執行役員
2013年6月　当社取締役、経営企画管掌
2017年4月　当社経営企画本部長
2019年7月　当社グローバルマーケティング本部長
2021年4月　当社コーポレート本部長
2021年6月　当社常務取締役
2023年6月　当社代表取締役社長就任

代表取締役会長　奥窪　宏章

株主の皆様には、社長就任以来長きにわたり賜りましたご支援に対し厚く御礼申し上げます。今後は代表取締役会長として、桂新社長とともにJMSの持続的な成長と一層の企業価値向上に努め、株主の皆様から期待される企業であり続けることを目指して参ります。

今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

代表取締役社長　桂　龍司

2023年6月27日付で奥窪前社長の後任として代表取締役社長に就任いたしました。創業精神を受け継ぎつつ新たな価値を創造し、世界の人々の健康を支えるブランドとしてステークホルダーの皆様の幸せを実現するべく尽力してまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

地域と連携して健康の維持向上に貢献
介護予防教室で「ペコじーな」を活用

口腔機能は、高齢者のフレイル※対策において重要視されており、介護予防の一つとして、口の健康を維持・向上する取り組みが広く行われています。

安芸太田町（広島県）の介護予防教室では、“舌圧（ぜつあつ）”に着目した口腔機能向上を目指したプログラムを実施。当社製品の「ペコじーな」を使い、地域の皆さまが楽しみながら舌圧のトレーニングに取り組んでいます。

これからも、地域社会との連携・協力を深め、すべての人々の健康でより豊かな生活に貢献するよう努めてまいります。

※フレイル…加齢により心身の活力が低下した状態。要介護状態に至る前段階に位置づけられています。

「ペコじーな」を使って舌圧トレーニング

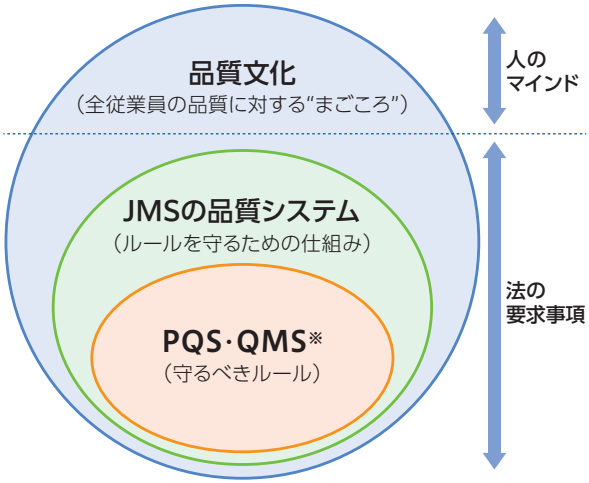
高品質な医療機器・医薬品を安定供給
全社で「品質文化の醸成」に取り組む

2022年3月に当社の出雲工場（島根県）で校正業務の逸脱事案が発覚し、関連部署に島根県及び広島県の立入調査を受けました。当社では、当該事案を厳粛に受け止め、これまで以上に全社を挙げて品質文化の醸成に取り組んでまいります。

JMSの品質文化

製品の品質だけでなく、全従業員の品質に対する “まごころ”

医薬品・食品品質保証支援センター（NPO-QAセンター）による研修会やコンプライアンス研修をはじめ、製品製造に取り組む姿勢を示した「もの造りマニュアル」の勉強会、全員参加型の品質改善活動、意見箱の設置などを実施。職種や部署を問わず、経営層から従業員まで全員が、品質文化に対する意識を高めてまいります。



※ 医薬品・医療機器品質マネジメントシステム

患者さんの負担軽減に貢献
「ミクスフローMP」がグッドデザイン賞

当社の単回使用遠心ポンプ「ミクスフローMP」が、2022年度グッドデザイン賞を受賞しました。本製品は、ポンプ形状と内部の流動状態を最適化することにより、血液へのダメージ負荷、血栓形成、患者さんへの負担を軽減した点が評価されました。なお、今回の受賞により、当社として3年連続のグッドデザイン賞受賞となります。

今後も、患者さんや医療従事者の方々に、安全で安心な医療に貢献する製品・サービスを提供できるように努めてまいります。

ミクスフローMP

社員が安心して生活できる取り組みを推進
経済産業省「健康経営優良法人2023」に認定

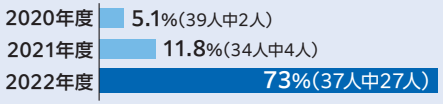
2022年に続き本年も、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2023」に認定されました。

当社は、医療に貢献する企業として「健康宣言」を定め、「ワーク・ライフ・バランスの充実」「健康維持・増進」「快適な職場環境」の各視点から、さまざまな取り組みを積極的に行っています。

これからも社員とその家族の皆さんが生き生きと安心して生活できる環境づくりを目指して、取り組みを一層推進してまいります。

主な取り組み

•ワーク・ライフ・バランスの充実
男性育休を推進。前年度の取得率を大幅に上回りました。



•禁煙外来プログラム　•社内分煙　•特定保健指導プログラム
•過重労働対策　•メンタルヘルス対策

小学校への「出張理科授業」で社会貢献

当社は、一般社団法人広島県発明協会と協力して、科学的な探究心の育成を目的とした「出張理科授業」を続けています。2023年1月には、広島市の小学校を訪問。6年生を対象に当社の人工臓器を使った授業を行いました。血液に見立てたコーヒー牛乳を人工腎臓(ダイアライザ)でろ過する実験を実施。子どもたちは医療機器の働きに驚き、興味を持って観察していました。

これからも、医療機器メーカーの立場から医療への興味・関心が高まるよう努め、社会に貢献してまいります。

出張理科授業の様子

生涯を通じて口から食べる幸せを。舌圧（ぜつあつ）を軸にした事業を積極展開し世界の人々の健康とQOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上に貢献。

当社が掲げる医療課題の一つに「口から食べる力をサポートし、生きる喜びを支え続ける」があります。病気や年齢に関係なく、生涯を通じて口から食べる楽しみや喜び、幸せを支えたい。その想いから、摂食嚥下（せっしょくえんげ）事業を展開しています。
今回は、ホスピタルプロダクツ ビジネスユニット BU推進室 新規事業開発担当 主席の豊田耕一郎に、摂食嚥下事業の取り組みについてインタビューしました。

ホスピタルプロダクツ ビジネスユニット BU推進室
新規事業開発担当 主席
豊田 耕一郎

Q 摂食嚥下とは何ですか。

口から食べる一連の動作

飲食物を認知することから始まり、咀嚼（そしゃく）し、飲み込み、胃まで送り込む一連の動作です。病気や加齢などで、この行為が難しくなることを摂食嚥下障害といいます。食道に送られるはずの飲食物や唾液が間違って気管に入ってしまう誤嚥（ごえん）は、摂食嚥下障害が原因となって引き起こされることが多いです。

体が弱っている方や高齢者は、誤嚥性肺炎を起こしやすくなります。誤嚥性肺炎は、入院期間が長期化したり、肺炎を繰り返したりと、患者さんへの負担が大きい疾病です。また、70歳以上の高齢者の誤嚥性肺炎に関する入院費用は年間約4,450億円※1にのぼるという報告も。誤嚥性肺炎の予防は、健康寿命の延伸だけでなく、医療費削減にもつながると考えています。

※1 出典：道脇ら,,70 歳以上の高齢者の誤嚥性肺炎に関する総入院費の推計値, 日本老年医学会雑誌, 28(4), 2014

Q 摂食嚥下における舌や舌圧の役割について教えてください。

舌の筋力“舌圧”がQOLに関連

私たちは食べるとき、舌や唇、頬など、さまざまな器官を複雑に動かしています。中でも舌は、食べ物を口に取り込んで、噛み砕き、飲み込むまでの一連の動作の中で、複雑かつ重要な役割を担っている器官です。

まず、舌は口の中に取り込んだ食べ物がどのようなものかを感じ取ります。そして、咀嚼する際には、食べ物を噛み砕ける奥歯の位置まで食べ物を移動させた後、飲み込みやすいように唾液と混ぜ合わせて柔らかくした食べ物の塊、すなわち食塊（しょっかい）を作ります。飲み込む際には、舌が食塊を口蓋（こうがい）（上あご）に押し付けて咽頭（いんとう）から食道に送り込みます。

これら一連の動作でポイントになるのが、舌圧です。舌圧とは、舌が口蓋を押す力。舌圧が低いと、食事の際にむせたり、食べこぼしたりして、食べ物をうまく飲み込めません。すると、体内に栄養を十分取り入れられず、栄養不足になり、筋力が弱って身体機能が低下。その結果、体力の低下によって外出機会が減るなど、社会性にも影響を及ぼす可能性が生じます。

このように、舌圧の維持・回復は、QOLを高める上で重要なポイントになります。

Q 摂食嚥下事業の概要を教えてください。

舌圧に着目した機器を提供

摂食嚥下事業は、栄養領域に含まれる事業です。栄養領域では、栄養療法のトータルコーディネーターとして、安全性と利便性の高い製品を提供しています。特に、経管栄養療法※2の製品群は、国内シェアNo.1を堅持。「栄養といえばJMS」といわれるほど、医療従事者の方々から高い評価をいただいています。

摂食嚥下事業は、「口から食べる」を栄養療法の原点として捉え、舌圧を基軸とする口腔機能検査機器やリハビリ器具を提供。摂食嚥下機能の維持および向上や誤嚥性肺炎の予防を通して、人々がいつまでもおいしく、楽しく、安全な食生活を送るための事業を展開しています。

※2　食事による栄養摂取が困難な方に対し、チューブを通して栄養を体内へ直接送る療法

Q 舌圧を基軸とした、摂食嚥下関連製品にはどのようなものがありますか。

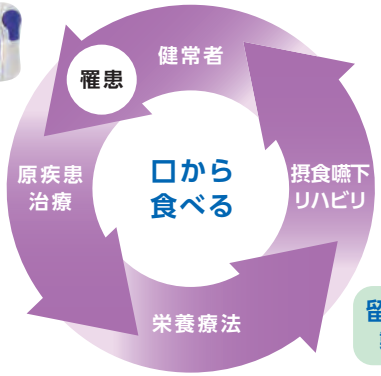
日本唯一の舌圧が測定できる医療機器

当社は、日本で初めて舌圧を数値で示す「JMS舌圧測定器」と、舌圧を鍛えるトレーニング用具「ペコぱんだ」「ペコじーな」を開発しました。

栄養事業コンセプト

栄養療法のトータルコーディネーターとして、栄養管理からリハビリ・回復まで、安全性・利便性の高い製品を供給する。

投与関連製品群



摂食嚥下関連製品群

留置関連
製品群

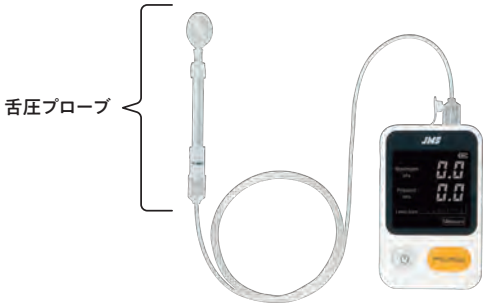
摂食嚥下事業コンセプト

「栄養療法」から
「口から食べる」への
橋渡し（検査・リハビリ）

オーラルフレイル／
口腔機能低下症の
早期発見と予防

JMS舌圧測定器

舌圧を測定できる日本唯一の医療機器です。口腔内に挿入したバルーン状のプローブを舌で押しつぶすことにより最大舌圧を計測します。あごの力の影響が加わらないように構造設計し、高い精度で測定できるのが特徴。これまで約1万台を、歯科診療所をはじめ、大学病院やリハビリテーション施設などにお届けしました。



ペコぱんだ

舌圧を強化するために開発した自主訓練用トレーニング用具です。パンダの顔に見立てたトレーニング部を舌で繰り返し押しつぶし、舌の筋力や持久力を鍛えます。負荷強度が異なる6種類をラインアップしているので、個々の舌の力に合わせて選べます。

「ペコぱんだ」の“ペコ”はトレーニング中に“ペコ”っとつぶれる様子を表し、“ぱんだ”は口腔機能の向上のためのリハビリで用いられる発声音「パンダノタカラモノ」に由来しています。

ペコじーな

介護現場や家庭などで、手軽に舌の筋力トレーニングができるデバイスです。広島県の産官学連携プロジェクト(医療・福祉課題解決に向けたデバイス開発パイロット事業)を通じ、国立大学法人広島大学ならびに県内関連企業の皆さまと共に開発しました。専用アプリをダウンロードしたタブレット端末を使えば、ゲームをしながら舌圧トレーニングを行えます。

ゲーム画面

Q 摂食嚥下事業のコンセプトにある「オーラルフレイル」と「口腔機能低下症」はどのようなものでしょうか。

口の機能低下と介護リスクにつながる

オーラルフレイルとは、加齢によって歯や口の機能が衰えた状態のことです。むせる、食べこぼす、滑舌が悪い、口が渇く、口の臭いが気になる、歯の本数が少ない…など、口まわりの衰えが積み重なることで、口腔機能は低下してしまいます。すると食べ物の選択肢が狭まって栄養に偏りが生じ、心身機能の低下につながると考えられています。

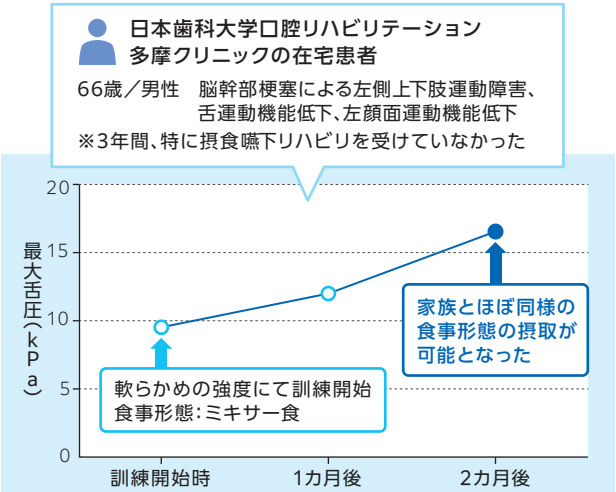
オーラルフレイルは介護リスクを高めるため、地域保健事業や介護予防による早期対応が必要です。地域の介護予防教室で「ペコぱんだ」や「ペコじーな」を利用していただくことで、口腔機能および口腔環境の改善に役立ちたいと考えています(P.3に関連記事)。

口腔機能低下症は、オーラルフレイルがさらに進行し、疾患としてみなされた状態です。7つの症状(口腔不潔、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚥下機能低下)のうち、3項目以上該当する場合に、歯科での対応が必要になります。舌圧検査の際、「JMS舌圧測定器」が特定診療報酬算定医療機器として保険適用されていますので、歯科領域での利用が着実に拡大しています。

今後は、医科領域での保険適用を目指し、さらなる環境整備と働きかけを進めていきます。

2カ月間の訓練による舌圧の変化

舌の巧緻(こうちせい)性、舌筋力の増強訓練を「ペコぱんだ」で実施
(訓練方法:5回押し潰しを1セットとし、3セットを1日3回実施 ⇒ 1日45回)



参考:菊谷 武, 西脇恵子: これ,いいね! 「ペコぱんだ」を利用した舌のレジスタンス訓練, 日本歯科評論, 73(9): 133-136, 2013.

Q 海外展開の進捗状況はいかがですか。

エビデンスを確保し浸透図る

日本国内での展開手法をベースに、海外でも積極的に事業を展開していきたいと考えています。まずはエビデンスを構築。信頼性を確保した上で、市場への浸透を図ります。

高齢化は世界各国の共通の課題です。既存の高付加価値製品や新製品の投入により市場開拓を行い、グローバル展開で事業の拡大を図ります。

Q 今後の展望をお聞かせください。

事業基盤を強化し、QOL向上に貢献

売上高の数値目標としては、栄養領域全体で100億円、摂食嚥下事業単体では15億円を設定し、その実現に向けて事業基盤の強化に取り組んでいます。

「いつまでもおいしく、楽しく、安全な食生活を送る」という考え方のもと、医療、介護、予防の各分野で安全性と利便性の高い製品を提供し、世界の人々の健康とQOLの一層の向上を支えていきます。

特集 サステナビリティ準備委員会の活動

安定的かつ持続的成長に向けたESG経営を推進。企業価値向上を目指し、社会課題を解決する。

当社では、環境負荷の低減や地域社会との協力、働き方の改善、企業統治の強化などの取り組みを行ってきました。2022年4月には、「サステナビリティ準備委員会」を設置。ESG課題の中で自社が優先して取り組むべき重要な課題「マテリアリティ」の特定や企業が示すビジネスモデル「価値創造プロセス図」の策定に向けて議論を重ねてきました。
今回は、準備委員会の推進リーダー上田麻美（経営企画部）と丸形洋平（総務部）に、委員会活動の進捗について話を聞きました。

経営企画部 上田 麻美　　総務部 丸形 洋平

長期ビジョンの実現に向けて

当社は、2030年に向けた長期ビジョンとして「未来の医療を先取りした新たな価値の創造を実現し、世界の人々の健康とQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の一層の向上を支える企業になる」を掲げています。これを実現するには、ESG経営による、安定的かつ長期的な成長が不可欠です。

ESGとは、環境（E:Environment）、社会（S:Social）、企業統治（G:Governance）の頭文字を合わせた言葉。自社の事業活動と成長を通じて社会課題を解決するには、これら三つの観点への配慮が必要だという考え方です。また、それらの取り組みが、企業の持続的成長において重要な要素として注目されています。

類似するキーワードとしてよく目にする「SDGs」があります。2015年に国連で採択された、持続可能な社会を目指す世界共通の目標です。当社では、ESGを重視した取り組みを推進し、結果としてSDGsにも貢献していきます。

サステナビリティ準備委員会（メンバーの所属部署 ※組織名は準備委員会設置当時のもの）

▶ 組織横断的に選出された将来の中核を担う社員で構成されています。

- ホスピタルプロダクツビジネスユニット
- サージカル&セラピービジネスユニット
- ブラッドマネジメント&セルセラピービジネスユニット
- 研究開発本部
- 生産本部
- 営業本部
- グローバルマーケティング本部
- 薬事・品質保証本部
- コーポレート本部

若手社員による横断的組織

「サステナビリティ準備委員会」の構成メンバーは、2030年に当社の中核を担う若手社員。全てのビジネスユニット・本部から人選、幅広い部署のメンバーで構成しているのが大きな特徴です。横断的組織ならではの多様性を生かし活動してきました。社会課題を解決するためにイノベーションを起こしていきたいと考えています。

多様な視点で議論を重ねる

同委員会の活動の主な目的は2つ。「マテリアリティの特定」と「価値創造プロセス図の策定」です。

「マテリアリティの特定」に向けては、複数回にわたり会議やワークショップを開催。課題をリストアップし、そこに社会的価値を結び付け、社外有識者にも重要度を評価していただくなど、複眼的な検討を重ねてきました。

「価値創造プロセス図の策定」にあたっては将来視点を重視し、2050年に向けてステークホルダーに提供したい価値や必要となるビジネスモデル、資本などを考察。議論の内容は役員会に報告し、経営陣ともディスカッションを重ねてきました。完成した価値創造プロセス図は、今年度上半期を目処に社外に向けて発信予定です。

対話を通じて信頼関係を構築

この後のステップでは、全従業員に理解・浸透を図り、高い意識を持って安定的かつ長期的な事業成長を目指していきます。

また、ESG経営を実践していく上では、株主・投資家の皆さまをはじめとするステークホルダーとの対話を通じ、お互いに信頼関係を構築していくことが重要です。今後、ESGを重視した取り組みを開始し、ニュースリリースなどで、積極的な情報の発信に加え、社外からの意見や期待を事業に反映していくことで、社会・経済全体への利益貢献とともに中長期的な企業価値を高めていきたいと考えています。

■ マテリアリティの特定 4つのテーマと19の重要課題

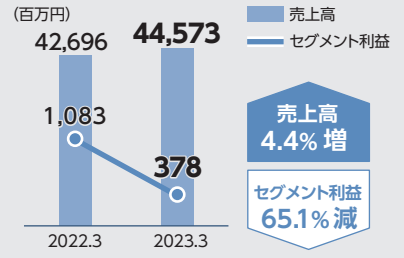
テーマ	重要課題
環境課題への貢献	循環型社会への貢献
	気候変動に対応した経営
環境・社会課題解決に向けたインパクト創出	環境課題に対応した製品開発
	すべての人々を笑顔にするための製品開発
	医療アクセスの向上
	予防医療サービスの拡充
	オープンイノベーションによる新たな価値の創造・提供
	グローバルマーケットにおけるJMSブランドの確立
	ヘルスリテラシーの醸成
	DX推進
価値創造を支える多様な自律型人材	DE&I（ダイバーシティー（多様性）エクイティー（公平性）&インクルージョン（受容・包括））
	働きやすさ・働きがい
	人的資本開発
健全なガバナンス体制の構築	コーポレート・ガバナンスの強化
	サプライチェーン全体でのサステナビリティへの取り組み
	事業継続マネジメント（BCM）の実施
	感染症への対応
	情報セキュリティの強化
	コンプライアンスの徹底

セグメント情報 連結

■ 所在地別

(注) セグメント利益は、経常利益ベースの数値です。

日本



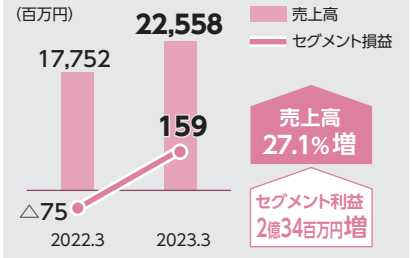
売上高 445億73百万円

薬剤調製・投与クローズドシステムが堅調に推移したほか、急性血液浄化事業に係る販売が中国向けを含めて増加しました。

セグメント利益 3億78百万円

原材料費や電力費などの高騰影響に加え、円安による外貨建て仕入取引の円貨換算額や販売活動費の増加により減少しました。

シンガポール



売上高 225億58百万円

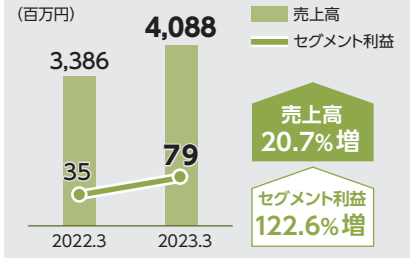
成分献血用回路の販売が北米において回復をみせたことに加え、アジア向け血液バッグや関係会社向けAVF針が売上を伸ばしました。

セグメント利益 1億59百万円

原材料費の高騰や需要回復に備えた労務費の増加などの影響があったものの、増収効果で吸収し、増加しました。

*シンガポールは、生産体制を相互に補完し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでいます。

中国



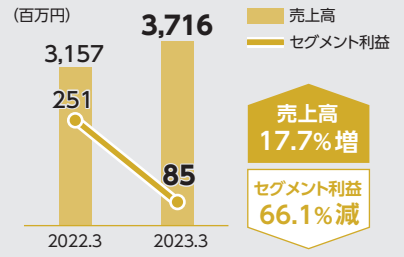
売上高 40億88百万円

AVF針や急性血液浄化回路の販売が好調に推移したほか、関係会社向けの経腸栄養関連用品や材料供給の増加により増加しました。

セグメント利益 79百万円

原材料費の高騰に加え、労務費などの増加もあったものの、増収効果と為替差益の計上により増加しました。

フィリピン



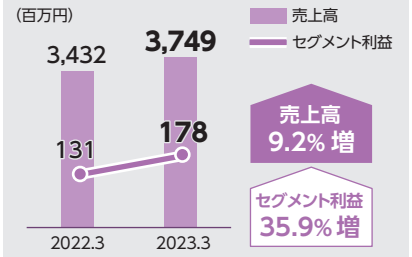
売上高 37億16百万円

アジア向け血液バッグや日本向け輸液セットが増加しました。

セグメント利益 85百万円

原材料費や電力費の高騰に加え、労務費や設備投資に伴う減価償却費の増加により減少しました。

ドイツ



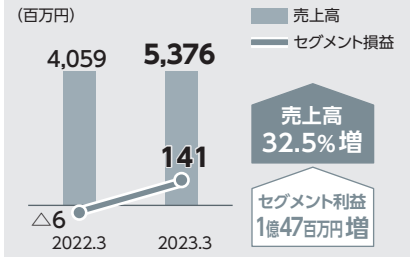
売上高 37億49百万円

透析用チェアや透析キットが増加したほか、血液バッグの販売が好調に推移し、増加しました。

セグメント利益 1億78百万円

海上運賃の増加を増収効果で吸収し増加しました。

その他



売上高 53億76百万円

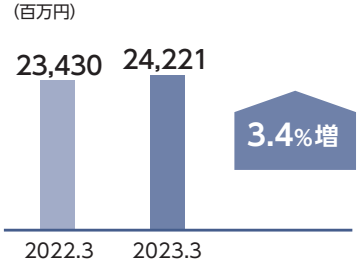
*その他は、国内子会社及びアメリカ、韓国、タイの現地法人の事業活動を含んでいます。

セグメント利益 1億41百万円

■ システム別 売上高

輸液・栄養領域

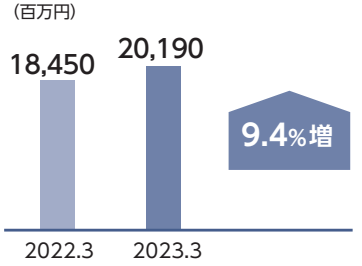
売上高 **242億21百万円**



薬剤調製・投与クローズドシステムが堅調に推移したほか、アジアで輸血セットが増加しました。

透析領域

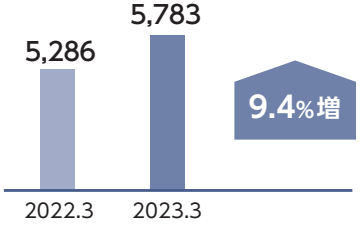
売上高 **201億90百万円**



北米や中国などでAVF針が好調に推移したほか、日本及び中国で血液透析装置、欧州で透析チェアや透析キットが増加しました。

外科治療領域

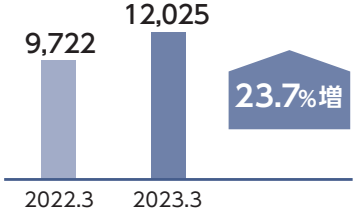
売上高 **57億83百万円**



日本及び中国で急性血液浄化事業に係る販売が増加しました。

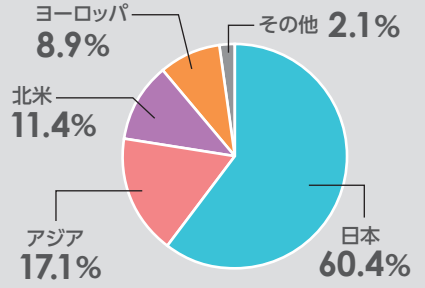
血液・細胞領域

売上高 **120億25百万円**

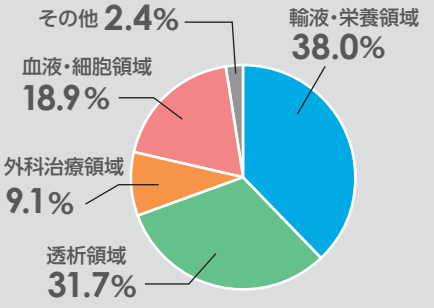


海外需要の回復により、北米で成分献血用回路やアジアを中心に血液バッグが増加しました。

■地域別売上高構成比



■システム別売上高構成比



輸液・栄養領域

輸液セット、注射針、シリンジ、薬剤調製・投与クローズドシステム、経腸栄養関連用品、摂食嚥下関連用品、輸液ポンプ、医療用手袋、不織布製品、他

透析領域

血液透析装置、ダイアライザ、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液、他

外科治療領域

膜型人工肺、人工心肺装置、人工心肺用回路、中心循環系マイクロカテーテル、急性血液浄化関連用品、他

血液・細胞領域

血液バッグ、成分献血用回路、血液成分分離バッグ、再生医療関連製品、他

財務諸表《連結》

■ 連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	前連結会計年度 2022年3月31日現在	当連結会計年度 2023年3月31日現在
《資産の部》		
流動資産	40,042	**42,263**
現金及び預金	6,605	**6,329**
受取手形及び売掛金	16,077	**17,197**
棚卸資産	16,533	**17,758**
その他	825	**977**
固定資産	31,928	**32,144**
有形固定資産	25,460	**26,008**
無形固定資産	1,035	**847**
投資その他の資産	5,432	**5,287**
資産合計	71,971	❶ **74,407**
《負債の部》		
流動負債	22,847	**22,437**
固定負債	12,030	**13,270**
負債合計	34,878	**35,707**
《純資産の部》		
株主資本	35,182	**35,057**
その他の包括利益累計額	1,777	**3,473**
非支配株主持分	133	**169**
純資産合計	37,093	❷ **38,700**
負債純資産合計	71,971	**74,407**

›››POINT 解説

❶資　産　合　計〔前連結会計年度末に比べ24億36百万円増加〕
・売掛金や有形固定資産が増加しました。

❷純　　資　　産〔前連結会計年度末に比べ16億7百万円増加〕
・為替換算調整勘定の変動により増加しました。

❸売　　上　　高〔前連結会計年度に比べ55億71百万円増加〕
・新型コロナの影響から回復がみられ、国内外ともに増収となりました。海外は血液・細胞及び透析領域が大幅伸長し、円安による円貨換算額の増加で売上高を押上げました。

❹営　業　利　益〔前連結会計年度に比べ2億55百万円減少〕
・増収効果はあるものの、原材料費や電力費の高騰に加え、需要回復に備えた労務費の増加や販売活動の再開による販売費の増加により減少しました。

❺経　常　利　益〔前連結会計年度に比べ5億39百万円減少〕
・補助金収入の減少や、持分法による投資損失の計上により減少しました。

■ 連結損益計算書

（単位：百万円）

科　目	前連結会計年度（2021年4月1日～2022年3月31日）	当連結会計年度（2022年4月1日～2023年3月31日）
売上高	58,169	❸ **63,740**
売上原価	43,899	**49,145**
売上総利益	14,269	**14,594**
販売費及び一般管理費	13,288	**13,869**
営業利益	980	❹ **724**
営業外収益	373	**258**
営業外費用	227	**397**
経常利益	1,126	❺ **586**
特別利益	2	**65**
特別損失	53	**31**
税金等調整前当期純利益	1,075	**620**
法人税等	261	**358**
当期純利益	813	**261**
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△12	**△19**
親会社株主に帰属する当期純利益	826	**281**

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　目	前連結会計年度（2021年4月1日～2022年3月31日）	当連結会計年度（2022年4月1日～2023年3月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,399	❻ **2,485**
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,677	❼ **△3,691**
財務活動によるキャッシュ・フロー	△499	❽ **525**
現金及び現金同等物に係る換算差額	365	**195**
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	588	**△485**
現金及び現金同等物の期首残高	6,222	**6,810**
現金及び現金同等物の期末残高	6,810	**6,325**

›››POINT 解説

❻営業活動によるキャッシュ・フロー
〔前連結会計年度に比べ19億14百万円の収入減少〕
・売上債権の増加によるものです。

❼投資活動によるキャッシュ・フロー
〔前連結会計年度に比べ13百万円の支出増加〕
・有形固定資産の取得にかかる支出によるものです。

❽財務活動によるキャッシュ・フロー
〔前連結会計年度に比べ10億24百万円の収入増加〕
・借入金の収支差額によるものです。

（注）金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

◉コーポレートデータ

(2023年3月31日現在)

設立	1965年(昭和40年)6月12日
資本金	7,411,014,445円
上場金融商品取引所	東京証券取引所プライム市場 (証券コード:7702)
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売 及び輸出並びに輸入
従業員数	1,602人(グループ総数 5,650人)

◉役員

(2023年6月27日現在)

取締役	代表取締役会長	奥窪 宏章
	代表取締役社長	桂 龍司
	取締役副社長	粟根 康浩
	取締役	柳田 正吾
	取締役	迫田 亨
	取締役	植松 雷太
	社外取締役	池村 和朗
	社外取締役	石坂 昌三
	取締役 監査等委員(常勤)	近藤 良夫
	社外取締役 監査等委員	水戸 晃
	社外取締役 監査等委員	佐上 芳春

国内ネットワーク

株式会社ジェイ・エム・エス

【本　社】広島本社／東京本社
【支社・営業所】東日本支社／中日本支社／西日本支社、営業所25ヵ所
【工　場】三次工場／出雲工場／千代田工場
【子 会 社】ジェイ・エム・エス・サービス株式会社《 医療機器の修理等 》
【関連会社】株式会社ジェイ・オー・ファーマ《 医薬品の製造・販売 》

海外ネットワーク

【子 会 社】株式会社 韓国メディカル・サプライ《 製造・販売 》
ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE.LTD. 《 製造・販売 》
大連ジェイ・エム・エス医療器具有限公司《 製造・販売 》
ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション《 販売 》
バイオニック・メディツィンテクニックGmbH《 販売 》
PT. ジェイ・エム・エス・バタム《 製造・販売 》
ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.《 製造・販売 》
ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・タイランド CO.,LTD.《 販売 》

◉株式等の状況

(2023年3月31日現在)

◇発行可能株式総数 …… 65,000,000株

◇発行済株式総数 …… 24,733,466株
(自己株式284,366株を含む)

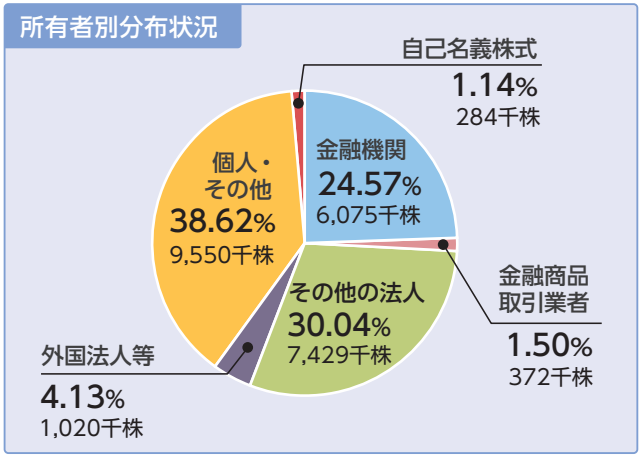
◇株主数 …… 8,952名

◇大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社カネカ	2,473	10.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,223	9.09
一般財団法人土谷記念医学振興基金	1,900	7.77
土谷　佐枝子	1,008	4.12
社会福祉法人千寿会	1,000	4.09
株式会社広島銀行	895	3.66
第一生命保険株式会社	645	2.64
JMS共栄会	601	2.46
大下産業株式会社	571	2.33
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	513	2.09

(注)持株比率は、自己株式(284,366株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況



株主メモ 証券コード：7702

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日	定時株主総会　3月31日 期末配当　3月31日 中間配当　9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 Tel.0120-094-777（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場
公告の方法	電子公告とする。 （https://www.jms.cc/ir/denshi.html） ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶https://www.jms.cc　JMS　検索

株式会社 ジェイ·エム·エス

広島本社　〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844　FAX 082-243-5997

東京本社　〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーバンスN館11F
TEL 03-6372-9120　FAX 03-6372-9121

【表紙デザイン】
テーマ「輝く未来へ」

輝く大きな星は「安心」や「希望」など、人々の心の中に光をもたらすイメージです。
同時に、JMS が医療機器を通じて明るい未来へ続く道を照らし続けることを表現しています。

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを採用しています。